



宇検村・伊仙町・奄美市による 歴史文化基本構想【鹿児島県】

■策定年月：平成22年3月 ■人口：43,361人 ■面積：100,252km²
■担当課：奄美市委員会文化財課（平成30年3月現在）※以上奄美市情報



奄美市・宇検村・伊仙町の3市町村で、文化財を活かした地域づくりのためのマスタープランとして位置づけ策定している。奄美群島全体を対象とした今後の広域的取組を期待して、将来ビジョン案を示したものである。具体的には、有形・無形の文化財で奄美の特徴を理解する上で欠かせないものを、「歴史遺産」「生活遺産」「集落遺産」の重点テーマとして設定、それぞれにストーリーを設定、関連文化財群まで抽出した。その上で、それらに共通する保存活用上の課題を把握し、今後の取組方針を検討した。

5 歴史文化を表す つのキーワード

島嶼、複雑な行政統治、境界、
森林・河川の発達、琉球文化地域

課題

- ・文化財の総合調査が不十分で、奄美群島の相対的特徴が未解明
- ・文化財保存に対する行政側の支援体制が脆弱
- ・継続的な啓発普及の取り組みが不足

保存活用方針

- ・文化財総合データベースの整備
- ・奄美遺産の登録・認定システムの確立
- ・奄美遺産の解説図書の作成

保存活用のための取り組み

文化財総合データベースの整備に向けて

奄美遺産活用実行委員会で、平成26年度に奄美の文化財の総合的情報が利用できるWEBサイト「電子ミュージアム奄美」を開設。また奄美市立奄美博物館で、平成30年度に「奄美希少野生動植物データベース」構築事業に取り組む。市内文化財の総合的な情報発信を進めている。



奄美遺産の登録・認定システムの確立に向けて

奄美群島12市町村で構成している「奄美群島文化財保護対策連絡協議会」で、歴史文化基本構想に従いながら、「奄美シマ遺産」のリストを、12市町村で毎年更新している。現在、12市町村で連携して「日本遺産」認定をめざして取り組みを開始している。



奄美遺産の解説図書の作成に向けて①

奄美遺産活用実行委員会で、平成27年度に奄美市内の文化財を集落別にまとめた奄美市シマ遺産ハンドブック『ふるふる奄美』を500冊発行。観光業界にも重点的に配布したところ、非常に好評で部数が不足したため、PDF版を「電子ミュージアム奄美」で公開している。



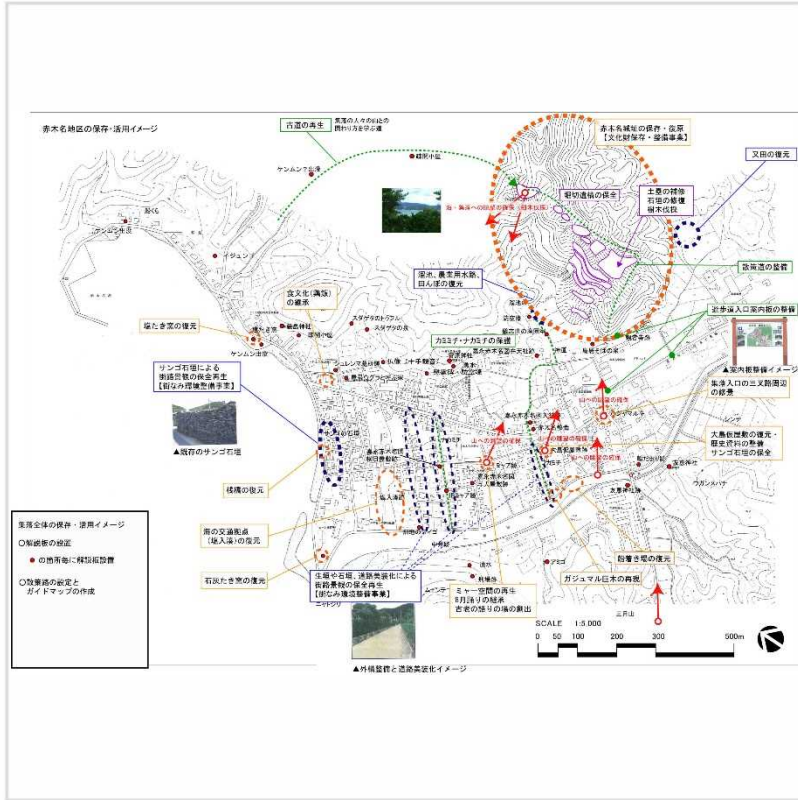
奄美遺産の解説図書の作成に向けて②

奄美遺産活用実行委員会で、平成28年度に奄美方言について、手軽に活用できるように、また観光でも異文化を楽しく理解しながら使えるように、日常生活に密着したシマグチの基本単語500語、例文90文を収録したシマグチハンドブックを発行した。（4,000部）





関連文化財群



【歴史遺産】奄美群島の社会的役割や特徴的事象に関連した文化財群を、各時代で拾い上げ、その歴史像を明らかにする。

【生活遺産】人と自然との濃密な関係を有する文化財群を拾い上げ、文化の固有性や多様性を明らかにする。

【集落遺産】特徴的な空間構造、年中行事、伝承世界、景観要素等を共有し、継承している集落（シマ）を、ひとつの関連文化財群として捉え、島民の世界観を明らかにする。

ストーリー

- ①先史時代の文化交流を示す遺産
- ②琉球統治時代を今に伝える遺産
- ③薩摩統治時代を今に伝える遺産
- ④奄美群島の近代化を物語る遺産
- ⑤戦争と戦後復興の足跡を示す遺産
- ⑥「ケムン」伝承
- ⑦多様な言語の存在を今に残す島口
- ⑧島の歴史・暮らし・心を伝える島唄
- ⑨自然に寄り添うシマの行事
- ⑩薩摩藩の統治拠点「赤木名集落」



策定後の成果（見込まれる効果）

① 「旧暦」が身近な暮らしに
奄美遺産活用実行委員会で、平成24～26年度に発行した「奄美旧暦行事カレンダー」は、市民に大好評で定着したため、平成27年度から市の単独予算で発行を続けている。毎年7,000人以上に利用され、地元マスコミにも浸透し、旧暦で行われている伝統的行事や自然界の変化等が、広く共有できるように。その結果、伝統的行事に対する関心が高まりはじめています。



② 地域のお年寄りから方言を学ぶ
奄美市教育委員会では、平成27年度から「シマグチ伝承活動推進事業」に市独自に取り組んでいる。市内全ての小中学校で、校区内のお年寄りを講師に招いて方言を学んだり、方言を学ぶ各校独自の取り組みが実践されている。その他、方言カレンダー、方言カルタ等の副教材や奄美遺産活用実行委員会による「シマグチハンドブック」の配布も実施している。



③ 地域の自立的活動の展開へ
平成27年度に国史跡・赤木名城跡、平成31年度に国史跡・小湊フワガネク遺跡の保存活用計画（見込み）の策定に取り組んでいる。史跡が所在する地域で、自立的な文化財活用の動きが活発になりはじめていて、平成30年度には、小湊集落が、史跡を活かした地域活性化事業を自主的に立ち上げる予定。赤木名集落も、史跡の清掃等の取り組みが実践されている。

